

2026 年度総会報告

自然観察ちば 2026 年 2 月 11 日

特別講演会 13:00～14:30

テーマ 「あなたの知らない蜃気楼の世界」

講師 大木淳一氏 (国立歴史民俗博物館 博物館事業課長)

総会開会 14:40～

代表挨拶 伊藤 道男

議長選出 議長挨拶

議 題

1 2025 年度事業実績 代 表 伊藤 道男 14:50～

2 2025 年度決算 会 計 浦部 純子

2025 年度会計監査報告 会計監査 藤田 隆

3 2026 年度事業計画 昭和の森観察会 梅宮 玲子

(定例観察会 親子田んぼ教室 特別観察会)

大草谷津田いきものの里自然観察会

岡田 敬子

東葛しぜん観察会 長谷川 依子

(定例観察会 研修会)

受託事業・その他 伊藤 道男

(千葉市 船橋市 成田市 千葉県緑化推進委員会等)

研修会 川瀬 美幸

SSN 川瀬 美幸

4 2026 年度予算 浦部 純子

5 役員改選 伊藤 道男

議長解任

閉 会 (連絡も) ～16:10

オプション 特別企画 自然観察 千葉公園 (雨天中止) 10:00～11:30

集合 千葉都市モノレール「千葉公園駅」階段下 (事前申し込み不要)

取りまとめ役 木下順次

懇 親 会 千葉公園内ボートハウスレストラン「ハーモニー」 16:30～18:30

会費 3,000 円(要申込) 担当 三嶋 秀恒

2025 年度事業実績

1. 総会

2025 年 2 月 11 日(火・祝)、総会、特別講演、オプション観察会、懇親会と、フルセットで実施した。総会と特別講演を千葉市生涯学習センター(大研修室)で実施した。出席は総会 44 名、講演会は 57 名(会員外を含む)。議長は木下順次氏。全議案(2024 年度事業報告・会計報告、2025 年度事業計画・予算、役員一部変更)が承認された。特別講演は、尾崎煙雄氏(千葉県立中央博物館)で、テーマは「身近な自然から生物多様性を考える」。オプション観察会は、中央博・生態園で平田稚江子氏のとりまとめにより 13 名が参加。懇親会は千葉公園内のポートハウスレストラン「ハーモニー」で、三嶋秀恒氏進行で 20 名が参加。

2. 自然観察指導員講習会

10 月 18 日(土)~19 日(日)、昭和の森フォレストビレッジにて、日本自然保護協会と自然観察ちばの共催で自然観察指導員講習会を開催した。受講者は 58 名。当会からは佐野由輝氏が講師として参加したほか、スタッフとして 9 名(伊藤、井上千、梅宮、奥村、川北、木下、菅澤、渡辺、山口)が参加した。スタッフはもう 1 名都内在住指導員(川井希美氏)が参加した。施設と野外実習のエリアとの間の坂道を何度も上り下りすることになったが、講師、受講者、スタッフの姿勢やマインドが一体化した感があり、非常に熱量の高い充実した講習会となった。受講者の内、13 名が自然観察ちばに入会した。

3. ホームページの改訂

自然観察ちばHPは、スマホでも閲覧しやすいように WordPress 等を使用しての改定で、掲載作業は会の内部でも出来るようマニュアルを作成した。旧 HP は閲覧できるようにしてある。各所で開催の観察会・研修会の活動報告や投稿の「会員の広場」を掲載している。掲載作業はワードレベルの作業で編集できるので会員からの参加協力をお願いしている。報告・投稿原稿の送信先アドレス: genkou@sizen-chiba.lolipop.jp。

4. 昭和の森

(1) 昭和の森定例観察会 第 2 日曜日

実施回数 実施 8 回、中止 3 回
参加者 159 名(大人 111 名 子ども 48 名) 指導員 64 名
<振り返り>

参加人数では、5月の昭和の森をぐるっと一回りが一番多かったようだ。昭和の森は調べれば、いろいろな歴史がありそうである。毎年、鳥、虫、生き物、ドングリがテーマの場合、沢山の応募がある。今年度は 4 月、11 月、12 月と雨天中止になり、令和 8 年の 2 月と 3 月に中止分を追加で実施することになった。臨時のテーマを担当していただく(いただいた)皆さんには大変感謝している。

(2) 昭和の森親子田んぼ教室

実施回数 3 回
参加者 60 名(大人 30 名 子ども 30 名) 指導員 13 名
<振り返り>

参加者の親子は、4 月田植え、6 月草取り、9 月稲刈りの作業の大変さを実感し、楽しんだ。また、作業後の生き物調べはドジョウやヤゴなどを捕獲して田んぼの自然も楽しんだ。田植え、草取り、暑い稲刈り日とも、親子が共同で助け合い、作業をしている姿が印象的だった。

(3) 昭和の森カタクリ特別観察会

実施回数 実施 4 日
参加者 290 名 指導員 延べ 12 名
<振り返り>

4 日間ともお天気には恵まれたが、カタクリの開花には少々早かったようで、1 日目は 2~3 輪、4 日目あたりによく 10 輪ほどのカタクリが咲きだした。一面に咲くカタクリを見ることはできなかったが、来園者は可憐に咲く数輪のカタクリを楽しそうに眺めていた。担当指導員からのカタクリの成長年月の話や蜜標のことを興味深く聞いていた。カタクリ観察道の近くにヒキガエルがちょうど卵を産んでいたのも、こちらも来園者に見てもらった。「昭和の森」の自然の豊かさを皆さんに知って頂けたのではないかな。しかしながら、温暖化の影響か? 年々カタクリの花の数が減ってきているようで、今後の状況が心配なところでもある。またイノシシの被害がカタクリにもどのように影響していくのか、こちらも気になる。来年もたくさんカタクリが姿をみせてくれることを祈るばかりである。

5. 大草谷津田いきものの里自然観察会 第3日曜日

実施回数 実施 7回、中止 4回

参加者 148名（大人 83名 子ども 65名） 指導員 33名

<振り返り>

4月から担当指導員を2名とし、写真係を置くようにした。夏時間(9時30分～11時)を昨年(7月)のみから7、9月に増やした。また、今年は雨で4回も中止となってしまった。

いきものの回は毎年安定の人気である。今後はいきもの以外(香り・音・落ち葉)の回も頑張っていきたい。「落ち葉で遊ぼう(11月16日)」は、毎年参加者からは大好評だが、残念なことに参加人数自体が少ない。「あの」楽しさ・心地よさを伝える工夫が必要と痛感した。

6. 東葛しぜん観察会

(1) 東葛一般観察会

実施回数 実施 10回、中止 1回

参加者 281名（大人 233名 子ども 48名） 指導員 142名

<振り返り>

コロナ感染注意のためマスク着用の方はいたが、感染対策エチケットを心得て特に心配なく一般観察会を実施できた。雨天中止は1回で10回の開催ができ、印西の松虫寺、我孫子のハケの道めぐり、お正月飾りなど久しぶりの実施ができてよかった。真夏の猛暑時期には夕刻の開催で大畔の森でホタル、江戸川土手での虫・コウモリがあり、午前中の自然たんけんラリーなど事故なく開催できてよかった。

(2) 東葛研修会

実施回数:研修会 3回実施

指導員 64名、一般参加者 2名

<振り返り>

研修会は3回の開催。1月に柴田佳秀氏講師で手賀沼の鳥、6月に赤城山・谷川岳での一泊バス研修会(26名参加)、12月に自然に学ぶバイオミクリーの座学を実施した。

(3) パークプロジェクト(講座・小学校校外学習)

実施回数 パーク講座 3回、小学校校外学習 3回

参加者 パーク講座 46名(大人 32名 子ども 14名) 指導員 14名

校外学習参加者 子ども 173名 指導員 20名

<振り返り>

パークプロジェクトの取組みは多岐に亘る内容になっている。パーク講座:1月桜を楽しもう、5月自然あそび、9月はじめての虫さがし、校外学習:市内・県外小学生、青少年会館からの小学生向けに自然体験の対応を行っている。7月の自然たんけんラリー・12月のお正月飾りはパークとの協力運営で進めている。

7. 行政関連

(1) 千葉市ふれあい観察会(千葉市環境保全課自然保護対策室)

実施回数 1回 中止1回

参加者 11名(大人 6名 子ども 5名) 指導員 4名

<振り返り>

5月は検見川浜(人工海浜)でコアジサシと浜辺の生き物をテーマに計画していたが、中止になり残念だった。9月は小山町谷津田(緑区)で、地元の関係者と協力して谷津田の生き物の多様性を実感できるプログラムとし、参加者は網に入ってくる生きものを飽きることなく観察していた。

(2) 稲毛海浜公園自然観察会(千葉市中央・美浜公園緑地事務所)

実施回数 4回

参加者 83名(大人 53名 子ども 30名) 指導員 19名

<振り返り>

埋立地の公園であるが、開設後かなりの年数を経て人工海浜も含む多様な自然を形成しており、それらを活かした体験型の自然観察を季節ごと実施している。

具体的には、2月は野鳥、5月は海辺の生き物、9月は昆虫、11月は自然遊びを内容とし、一部は室内も利用して実施し、参加者の多くを占める近隣住宅地の親子連れなどに好評だった。

(3) 成田市自然観察会(成田市環境計画課)

実施回数 4回

参加者 69名(大人48名 子ども21名) 指導員 25名

<振り返り>

今年から年4回となったが、3月は成田山周辺で歴史と一体となった自然観察、7月は夏休みの親子に特化した生き物教室、11月は様々な自然遊びの体験、12月は冬鳥の観察とバランスのよい内容で実施できた。

遠隔地の指導員の支援については次第に縮小しており、成田市及び近隣の指導員が中心となって運営する体制が次第に整いつつある。

(4) 船橋自然散策会(船橋市環境政策課)

実施回数 1回 中止1回

参加者 29名(大人14名 子ども15名) 指導員 3名

<振り返り>

2回予定の内、1回が雨天中止で残念だったが、秋の親子自然散策会は参加者も多く賑やかな開催となった。木戸川地区の斜面林の道と川縁りの道を散策しながら、いろいろな草木の実、葉っぱなどを触ったり匂いを嗅いだり虫眼鏡でじっくり観たり。休憩場所では、どんぐりのパチンコ、マラカスなどを親子で楽しんだ。散策会の最後に、予め配布しておいたビンゴペーパーを使って観られたものを皆で振り返った。

(5) 花島公園観察会(千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所)

実施回数 4回

参加者 130名(大人97名 子ども33名) 指導員 17名

<振り返り>

昨年は応募者0の行事もあったことから、2月、3月野鳥、4月キンラン、7月昆虫と参加者の見込まれるテーマとしたことから、参加者は平均で30名を超す盛況となった。これまでと同じく熱中症対策、雨天対応などを踏まえ当初から室内プログラムを組み込んだ内容としたが、7月以外は室内を使うことはなかった。

(6) その他

① 検見川ビーチフェスタ(千葉市緑政課)

実施回数 2回

参加者 約390名 指導員 15名

<振り返り>

千葉市主催の地域イベントへの出店展示であるが、5月は検見川浜の生き物展示、生き物ビンゴ、ヤドカリ競争など、9月はどんぐりコマ作り、どんぐり流し、ドングリ落としゲーム、竹ぼっくりなど、会員それぞれの得意分野を持ち寄る形で複数の展示内容とし、多くの参加者で賑わった。長時間のテント展示への対応として担当時間を分担するなどの工夫を行った。

② なりたの森あそび(ちば里山センター経由依頼)

実施回数 2回(11月)

参加者 小学生67名 指導員 8名

<振り返り>

2校とも成田市内の里山で実施した。秋探し、見つけた自然物を使った遊びやものづくり、落ち葉を集めてダイナミックに森遊びを楽しんだ。最後に木の実や落ち葉の役目から、森の循環についても考えた。

8. 研修関係

実施回数 実施 1回(11月)

テーマ 「(今だから!)野生動物を知るという選択」

場所 多摩森林科学園 講師:岡輝樹氏(森林総合研究所)

参加者 31名 スタッフ 3名

<振り返り>

2025年、クマの人身被害者数は過去最多を記録しており、この時期にクマに関する研修会が実施できたことはとても有意義だった。研修会場の多摩森林科学園ではクマの企画展も開催されており、剥製や骨格標本などに実際に触れながら確認することができた。講師の岡さんからは、クマの生態や習性、ブナの凶作との関係などの詳しい解説を聞くことができた。また、午前中には会員の佐野由輝さんによる樹木園の観察会も行われ、学びの多い充実した一日になった。

9. 企業・団体関連

(1) (公社)千葉県緑化推進委員会

① 緑の募金による森と緑に親しむ活動支援

実施対象 3か所(松戸市2カ所、千葉市若葉区)

<振り返り>

いずれも地域住民を対象とした緑の募金の主旨にふさわしい活動で、実施内容も幅広く参加者も多数だった。

② 「みどりの教室」

実施回数 1回(8月)

場所 緑化推進拠点施設 晝間講師、指導員スタッフ2名

参加者 27名

<振り返り>

幼稚園や保育園の先生方を対象とした研修会。気温が高く、野外活動は最小限とし、室内での研修とし、ダンゴムシ遊び、木の枝を使った自然遊びなどを行った。自然体験の意義や安全性についても説明、共有した。

③ ちば里山イノベーションハブ

連絡会議 2回(6月、12月)

<振り返り>

団体同士の協力の在り方が徐々に明らかになってきて、今後、具体化してくると思われるので、都度、可能な範囲で参画して行きたい。

(2) 八千代市の保育園(ChaCha Children Yachiyo)

① 自然遊び(ネイチャーウォーク)

実施回数 3回

幼児 79名 保育士 7名 指導員 11名

② 保育園職員向けの自然観察研修

実施回数 1回(1月)

参加者 15名 講師:晝間

<振り返り>

冬・初夏・秋の八千代台北子ども森で、五感を使い自然とのふれあいや遊びを体験、様々な発見や気づきで大いに盛り上がった。どの子どもも自然への関心が高く活動的であった。後日、保育士対象の研修会を実施、身近に自然遊びの材料がたくさんあることを知ってもらった。

9. SSN関係

年間活動実績(2025年1月~12月まで)

実施回数 43回

参加児童 2,260名 指導員延べ 175名、協力者延べ 69名

詳細は別紙「SSN年間活動実績一覧表」のとおり

<振り返り>

2025年のSSN活動は2024年より7回、参加児童人数で594名減ることとなった。実施する学校自体は変わらないのだが、7月に35℃以上の猛暑日になることも多くなり、この時期の観察会を控えた学校もあったが、観察時間を短縮するなどの対応をとり実施した学校もあった。寒い時期にはインフルエンザなども流行し指導員の体調管理などにも気を使った。

10. しおかぜ発行

発行回数 6回(232～237号) 印刷・発送はすべて外注:正文社(千葉市)

編集担当 太田 勝股 菅澤 高木 三嶋

イラスト 梅宮 小坂

<振り返り>

会報しおかぜの掲載構成は、行事予定 会員情報・行事報告に、昭和の森、大草谷津田いきものの里、東葛しぜん観察会、受託観察会等の活動報告で会員からの投稿を含めて16ページ程度の編集で推移し、総会案内、年会費振込用紙の同封などで発送している。会報は会員間の絆と位置付け、自然観察ちばHPとも併せて情報の共有化を図っていきたい。

11. その他

メールマガジン

発行回 12回(54～65号)

編集担当 伊藤

<振り返り>

毎月1回月初めに会員200名余に配信し、行事予定の詳細を記載するとともに、当日(応援)スタッフの呼びかけにポイントを置いた。なお、新会員の自己紹介に注力し、多くの会員の人となりを知る機会となった。

またコラム(会員の広場)を添付し、会員間コミュニケーションの醸成を図った。コラムは自然観察ちばHPにも掲載している。会員向けの編集内容としていることもあり、会員外への配信については踏み出さなかった。

配信を開始して5年を経過し、編集内容・配信範囲などを見直す必要も感じるが、なかなか難しい。

12. 月例会(毎月第3土曜日)

実施回数 12回 (ZOOM 11回 千葉1回)

参加人員 169名

2026 年度事業計画

1. 総会

2月11日(水・祝)、千葉市生涯学習センターで実施する。
講演会、懇親会、特別観察会(千葉公園)を実施する。

2. 昭和の森

(1) 昭和の森定例観察会 第2日曜日

毎月第2日曜日午前10～12時、8月を除いて年11回実施する(7月は室内)。毎回定員は25名程度で公園管理事務所が先着順で申し込みを受け付ける。今年度からは雨天の場合なるべく、室内で出来るものを考えておく。強制ではないので、室内が難しい場合は別の日に臨時で出来るようにすることも考える。
当日の受付は昭和の森管理事務所(指定管理者) 指導員は2人体制

(2) 昭和の森親子田んぼ教室

4月(田植え)、6月(草取り)、10月(稲刈り)の3回実施する。定員は親子で20名程度。受付は昭和の森管理事務所(指定管理者)で指導員は3人体制。

(3) 昭和の森カタクリ特別観察会

昭和の森管理事務所より委託を受け、3月27・28・29日の3日間実施する予定。

3. 大草谷津田いきものの里自然観察会 第3日曜日

毎月10時30分～12時

夏季(7月～9月)は9時30分～11時

毎回定員は30名、受付は千葉市環境保全課

指導員は3人体制(うちの1人は記録担当)

※千葉市環境保全課と令和8年度実施要項の調整を進めている。

4. 東葛しぜん観察会

東葛の活動は、一般観察会8回、研修会5回、パークプロジェクトの講座4回を予定。研修会については、内部講師4回、県外への一泊バス研修を予定している。パークの校外学習支援も引き続き3回程度は要請されると想定。

5. 行政関連

(1) 千葉市ふれあい観察会(千葉市環境保全課自然保護対策室)

年2回を予定(9～12時)

(2) 稲毛海浜公園自然観察会(千葉市中央・美浜公園緑地事務所)

年4回を予定(10～12時)

(3) 船橋市自然観察会(船橋市環境政策課)

年2回を予定(9時30分～12時)

(4) 成田市自然観察会(成田市環境計画課)

年4回を予定(9時30分～12時)

(5) 花島公園観察会(千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所)

年4回を予定(10～12時)

(6) 緑の募金による自然に親しむ事業(千葉県緑化推進委員会)

3団体(3か所)の支援を予定

6. 研修関係

今後、どのようなニーズがあるか、研修担当や役員で話し合っ内容を決めていきたい。

7. 企業・団体関連

依頼内容に応じて、実施する。

8. SSN関係

去年は SSN 担当者会議が実施できなかつたので、今年はオンライン利用なども検討して実現させたい。また近年は探究学習に力を入れている学校も多く、新たな要望があつた際には対応できる体制を整える必要があると感じる。そのために今後 SSN 活動に協力していただける指導員を養成していくことも課題のひとつ。

9. しおかぜ発行・自然観察ちばホームページ

(1) しおかぜ

編集者： 勝股、太田、三嶋、高木、菅澤 5名

表紙イラスト：梅宮、小坂 2名

印刷・発送：外注予定 <外注先：正文社(千葉市)>

送信先アドレス：genkou@sizen-chiba.lolipop.jp、ロリポップ！WEBメーカーからダウンロード

(2) ホームページ

2025年度からスマホで閲覧しやすいようにWordPressで掲載できる「自然観察ちばHP」に改編した。

毎月の観察会報告・会員の広場・行事予定などを掲載し、旧HPも閲覧できるように編集している。

皆さんからの写真投稿も掲載できるように検討したい。

10. メールマガジン

行事予定、会内外の研修会・講習会の詳細を記載し、会員間コミュニケーションの醸成を図るコラムとあわせ、引き続き月初めに会員に配信する。なお、コラムについては、HPにも掲載しそのURLを案内する。

11. 月例会

毎月第3土曜日夜刻にZOOM会議での開催を原則とし、必要に応じて千葉市の公共施設でリアル開催する。

役員改選

<任期：2026年—2027年>

- 代表 伊藤道男 (総括・一部渉外事務)
- 副代表兼事務局長 山口正明 (事務全般)
- 事務局補佐 (兼) 相吉達夫※ (一部事務)
- 会員管理 川北紀子 (名簿管理・昭和の森特別観察会等担当)
- 会計 浦部純子 (出納・会計担当)・(兼) 菅澤麗子※ (会費担当)
- 観察会 梅宮玲子 (昭和の森観察会・親子観察会担当)
佐野由輝 (昭和の森観察会担当・親子観察会担当)
奥村和男※ (昭和の森観察会担当・親子観察会担当)
岡田敬子 (大草谷津田いきものの里観察会担当)
相吉達夫 (大草谷津田いきものの里観察会担当)
長谷川依子※ (東葛しぜん観察会担当)
(兼) 三嶋秀恒 (東葛しぜん観察会担当)
- 研修会 川瀬美幸・白波志帆・(兼) 佐野由輝
- S S N (兼) 川瀬美幸・櫛田廣子
- 自然体験等 晝間初枝 (ちばの森遊び・緑の教室担当)
- 広報 三嶋秀恒 (広報担当・会報編集委員長)
太田慶子・勝股政雄・菅澤麗子・高木純一 (会報編集担当)
(兼) 梅宮玲子・小坂裕子 (表紙イラスト)
- ホームページ (兼) 三嶋秀恒・(兼) 川北紀子※
- ZOOM (兼) 川瀬美幸
- 会計監査 藤田 隆・花島伸美

退任者：小川洋子、木下順次、山下美佐子